

## 紙管——坂 茂による紙の建築

Shigeru Ban's Paper Tube Structures

2011年の3.11以降、私たちは「物」のありかたをめぐり、より深い思考をせまられている。便利な物で溢れかえる現代社会の中で、人の命と多くの物が一瞬にして失われてしまうという出来事を目の当たりにしたのである。

東日本大震災において建物が倒壊し、津波で何もかもが流されたあと必要とされたのは避難所でのプライベートな空間、いわば個人／家族の空間だった。建築家・坂 茂は、これを、軽やかで、誰もが簡単に組み立てることができる「紙管」という素材によって作りだした。1995年に阪神淡路大震災が起こったときも、人が集まり祈る空間としての教会や個人の住宅が、紙管を使って生みだされている。坂は、防水や不燃の加工ができ、調達とリサイクルが容易なこの素材を用いて、日本に留まらず、ルワ

ンダ、トルコ、インド、スリランカ、中国、ニュージーランドなど、世界各地の被災地や紛争地に赴き、仮設の住宅や学校、シェルター、ホール、聖堂の建設などを行っている。

困難な状況のさなかに、紙管というなにげない物から、「暮らし」の一步となる空間をつくりだす。この日本人の建築家が世界的に展開している紙管による建築の実践は、期せずして私たちと「物」との関わりをめぐり原初的な問いかけにもなっている。私たちはどんな物を使って暮らしを立て、どんな世界をかたちづくっていくのか？ 現代の世界において、多くの物が失われた非日常の中で、紙管によって築かれる新しい日常の歩みは、この問いにも新しい光をあててくれるはずだ。



避難所用 紙の簡易間仕切りシステム 4  
Paper Partition System 4  
2011 岩手県大槌町・大槌高校体育館  
© Shigeru Ban Architects



上：紙の大聖堂  
2013 Christchurch, New Zealand  
© Stephen Goodenough



下：紙のログハウス - 神戸  
Paper Loghouse - Kobe  
1995 神戸  
© Takanobu Sakuma